

科目の年間授業計画（シラバス）

教科・科目	地理歴史・歴史総合（必修科目）	単位数 2単位 4単位を2年次・3年次で分割履修	履修年次 2年次
目標	1 歴史的事象を多角的に見る力・考える力を養い、現代社会のさまざまな課題を追求・解決しようとする力をつける。 2 さまざまな資料から得られる情報をもとに考察し、適切かつ効果的に調べまとめる力と表現する力を養う。 3 グローバル化する国際社会において必要な歴史的知識と、他者と協働できる広い視野を身につける。		
使用教材	私たちの歴史 日本から世界へ（山川出版社）		
評価の観点	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を身につける。合意形成や社会参画を視野に入れ、構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、平和を愛し、各国が相互に主権を尊重し協力し合うことの大切さについての自覚を深める。
評価方法	授業プリントの記述内容、提出頻度・授業態度、質問への応答内容・定期考査の結果などについて観点別評価		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	見開き／世界地図・日本地図 巻頭資料／歴史の舞台 1 東アジア 2 南アジア・東南アジア 3 西アジア 4 ヨーロッパ 5 アメリカ大陸 6 アフリカ大陸	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を用いて気候・風土の概要および世界主要国の国名・都道府県名を習得する。 ・ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教という3つの一神教が誕生したことや3者の関係を考察する。 ・ヨーロッパ人が香辛料を求めて、南アジア・東南アジアに進出したことを理解する。 ・15世紀末以降のヨーロッパの対外進出により世界の一体化が進行したことを考察する。 ・ヨーロッパの進出により現代のアメリカ大陸諸地域の社会が形成されたことを考察する。 ・アフリカ大陸の植民地化が現在の諸地域に与えた影響を考察する。 	
2	第1部 近代化と私たち 1 18世紀の世界とアジア 考えてみよう／琉球と蝦夷地 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 日本の明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアにおける経済や文化の発達と、ヨーロッパ諸国の対外進出との関係について考察する。 ・琉球王国から沖縄県に至る歴史と海上交易との関係、および蝦夷地から北海道に至る歴史とアイヌの同化政策の変遷を理解する。 ・産業革命による工業生産の機械化・大規模化と世界の結びつきについて考察する。 ・アヘン戦争の原因と戦後の中国の変化や欧米諸国の東アジア進出について考察する。 ・アヘン戦争に清が敗れたことが、江戸幕府の対外政策に与えた影響について考察する。 ・ペリー来航の背景とそれに対する江戸幕府の対応を理解する。 ・開港が当時の社会にどのような影響を与えたかを考察し、理解する。 ・18世紀後半以降の欧米で市民革命がおこった背景について考察し、理解する。 ・不平等条約の解消が大きな課題であったことを理解できている。 ・大日本帝国憲法の制定過程や憲法の内容を理解できている。 	
3	12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合 いまの私たちにつながる課題 ・自由貿易と保護貿易	<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争がおこった背景と戦争の経過および講和条約の内容を理解する。 ・日露戦争から韓国併合に至る過程について理解する。 ・日露戦争の勝利がアジア諸地域に与えた影響について、中国を具体的な事例として考察し、理解する。 ・中国（清）とイギリス、19世紀後半のアメリカを例に、自由・制限の観点から貿易について整理できる。 	
学習上の留意点	歴史が過去の事実の単なる集積や羅列ではなく、現在の社会や文化につながることを認識させる。その上で、日々新聞やニュースで報道される政治や経済等の動向についても、その歴史的背景をふまえて、多方面からとらえ、考えるよう意識づける。		

科目の年間授業計画（シラバス）

教科・科目	地理歴史・地理A（必修修科目）		単位数 3 単位	履修学年(年次) 4年(年次)
目標	1 地理的な視点を持って問うこと、調べることを通して、見方や考え方の基礎を身につける。 2 現代世界に生起している様々な問題を地理的視野に立って認識し、考察する能力を養う。 3 地理的な事象を事例を通して認識し、それをもとにして課題を設定し、追及する能力を養う。			
使用教材	高等学校 新地理A（帝国書院）、標準高等地図-地図で読む現代社会-（帝国書院）			
評価の観点・評価標準	（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）	（資料活用 of 技能）	（知識・理解）
	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理学習の基本的地名を認識し、それをもとに思考・判断ができる。 また、その過程や結果を適正に表現できる。 現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、考察の過程や判断した結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や統計、画像など地理に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追及する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理の基本的事項を理解し、国家的なつながりと特徴を把握しているか。 国際社会で生起する問題を地理的視野に立って整理し、理解している。
評価方法	授業プリントの記述内容、提出頻度・授業への取組、質問への応答内容・定期考査の結果などを総合評価			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	≪第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題≫ 〈1章 地球儀や地図からとらえる現代社会〉 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界 〈2章 人間生活を取り巻く環境〉 1節 人々の生活と地形 2節 人々の生活と気候 3節 人々の生活と産業・文化 〈3章 世界の諸地域の生活・文化〉 1節 中国の生活・文化		<ul style="list-style-type: none"> この地球の大陸と海洋の分布、緯度と経度、時差のしくみと求め方等についての認識を深める。 さまざまな国境、領土、国と国との結びつき、地域的な枠組みとグローバル化について交通・通信から移動、更に貿易等についての認識を深める。 身のまわりの国際化について具体的な事例をもとに認識を深める。 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活のかかわりなどについて考察する。 	
2	2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 南アジアの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アングロアメリカの生活・文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化		<ul style="list-style-type: none"> 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解するとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察する。 	
3	〈4章 地球的課題と私たち〉 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題 ≪第2部 身近な地域の課題≫ 〈1章 身近にあるさまざまな地図〉 〈2章 日本の自然環境と防災〉 〈3章 身近な地域の課題と地域調査〉		<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解するとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性をふまえた対応が必要であることなどについて考察する。 環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解する。 課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であるということを理解する。 	
学習上の留意点	「地理」がたんなる地名を覚えることや、知識を羅列することではなく、現代世界の一員として生きているということを見出し、何が問題であり、どのように整理し、解決へ至るかを理解する科目であることを認識できるよう留意する。そのためにも身近なニュースや事例を取り上げ、それらに関心を持つことを通して地理という科目へアプローチできるようにする。			